

平塚柔道物語 6 6

笑顔のチャンピオン仁藤愛

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

その日、仁藤愛は二つの敵との苦戦を強いられていた。大野中三羽鳥と称される青木愛と塩澤茜は既に優勝を決めていた。残すは自分の勝敗のみという状況、勝たねばならぬという過度の緊張とプレッシャー、そして県下でも強豪の対戦相手という二つの敵である。実力は僅差であったが、勝利の女神は仁藤に微笑んだ。優勝が決まった瞬間、真田教師は彼女に駆け寄り、「仁藤よ、よく頑張った！！ 青木も塩澤も先に優勝していた。そのプレッシャーによく耐えた」と褒め称えた。先生は私の心のすべてをわかってくれたのだと思うと嬉し涙が込み上げた。彼女は「真田先生にほめてもらえたことが本当に嬉しかった。この時ほど柔道をやっていて良かったことはない」と語っている。

平成14年、三羽鳥は、神奈川県代表で全国大会に出場し、活躍した。仁藤は中学を卒業すると、青木愛と共に柔道の強い横須賀学院に入学、2人とも高校で活躍した。2年生の時、仁藤愛は優勝をめざして他の誰よりも練習に励んだ。彼女の想いが叶い、県大会個人戦で優勝、52kg級のチャンピオンになった。その時、「他人に勝ちたいなら他人の3倍も5倍も練習することだ」という真田先生の言葉を実践したという。まさに死にもの狂い！！一生懸命のチャンピオンであった。

ただ彼女には他の選手と違うところが一つあった。それは、試合の時に笑顔で戦ったということである。そんな選手は県の中でも彼女1人であった。彼女は試合をいかに楽しむかを念願に対戦していたという。身体がリラックスし、自分の練習した力を大いに発揮できるのであった。彼女が独自に体得した戦法である。中学時代の一生懸命のチャンピオンは、高校に来て笑顔のチャンピオンに成長していたのである。彼女にその経緯を聞いてみた。「高校の恩師、瀧名淳先生は、いつも『全力で取り組み、辛い時に

は笑え』と指導していた」という。彼女は一生懸命が故にそれを実行し、身に付けたのであった。笑顔の戦法の陰には、「ここに人あり」やはり素晴らしい指導者がいたのである。彼女はその後、日本体育大学を卒業し、現在、東京で整体の仕事をしている。4人のスタッフを抱える店長としての活躍である。彼女は語る。「真田先生が教えてくれた『人の3倍も5倍も頑張ることだ』という教をこの道でも常に忘れずに実践している」と。また来院者への対応が良いとの評判を聞く。常に笑顔で多くの顧客の心を癒し、誠意をもって対応しているからではないかと私は思う。これは高校柔道で学び得た笑顔の戦法の賜物ではないか。大野中学校、横須賀学院高校で学び活躍した青木愛と仁藤愛の現在の生き方をみると、真田州二郎という中学の恩師と瀧名淳という高校の恩師に大きく影響されたことは言うまでもない。

最近、「瀧名先生とはどういう人か」と青木愛に尋ねてみたところ、瀧名先生の「卒業生に贈るあいさつ文」を見せてくれた。私は思わず感動で涙した。そこには全柔道部員を思う真心で埋め尽くされており、青木愛と仁藤愛の功績も称えられている。さらに彼独特の柔道人生哲学が盛り込まれていた。それは「笑顔なくして前進なし」「明るさこそ強さである」「微笑をもって柔道の天下統一をしよう」という遠大な構想でもある。「信頼から感謝」感謝から本物の笑顔が生まれる」ことも提唱されていた。心を揺さぶられる内容と迫力があつたので、ここに紹介したい。

— 続く —



整体師・店長 仁藤愛